

北九州学術研究都市の今



大学および産学連携施設

北九州学術研究都市進出大学・産学連携施設

1 北九州市立大学

国際環境工学部

■学生定員：1,000名
 エネルギー循環化学科
 機械システム工学科
 情報メディア工学科
 建築デザイン学科
 環境生命工学科

大学院国際環境工学研究科

■学生定員：356名
 環境システム専攻
 環境工学専攻
 情報工学専攻



2 九州工業大学大学院



生命体工学研究科

■学生定員：352名
 生体機能専攻
 脳情報専攻

3 早稲田大学大学院



情報生産システム研究科

■学生定員：460名
 情報アーキテクチャ分野
 生産システム分野
 システムLSI分野

4 福岡大学大学院

工学研究科

■学生定員：32名
 資源環境・環境工学専攻
 エネルギー・環境システム工学専攻



学生・教員数

平成23年5月1日現在【人】：()内は留学生数

大学	学部	修士	博士	学生数計	教員数
北九州市立大学 国際環境工学部	1,136 (56)	—	—	1,136 (56)	73
北九州市立大学大学院 国際環境工学研究科	—	284 (57)	32 (15)	316 (72)	—
九州工業大学大学院 生命体工学研究科	—	300 (10)	105 (16)	405 (26)	43
早稲田大学大学院 情報生産システム研究科	—	321 (256)	162 (112)	483 (368)	32
福岡大学大学院 工学研究科	—	11 (3)	3 (0)	14 (3)	2
合計	1,136 (56)	916 (326)	302 (143)	2,354 (525)	150

※産学連携センター内

A 産学連携センター

産学連携センター
1号館



産・学・官が手を組んで研究を進める中核施設

「福岡県リサイクル総合研究センター」などの研究機関や、最先端の研究を行う企業、「福岡大学大学院工学研究科」が入居している。また、100人程度まで対応できる会議室や研修室なども提供している。

- 貸研究室(31室)
- 研修室、会議室(中・小)

B 共同研究開発センター

産学連携センター
2号館



半導体微細加工技術の研究開発を支援する施設

企業や大学などが半導体製造関連分野の研究開発などを行う施設。ICやMEMSの試作を行う研究開発機器の開放や研究室の提供などを行う。IC試作体験実習(CMOSプロセス)の受け入れも可能。



- 貸研究室(7室)
- 共同利用の半導体プロセス関連機器等を設置(クリーンルーム、イオン注入装置、プラズマCVD、レーザービーム露光装置等)

C 情報技術高度化センター

産学連携センター
3号館



ネットワークや半導体設計に関する研究開発を行う施設

企業や大学などが高度な情報通信技術や半導体設計技術の研究開発などを行う施設。コンテンツ制作や半導体設計を行う研究開発機器の開放や研究室の提供などを行う。



- 貸研究室(24室)
- 半導体設計を行う研究開発機器等を設置

D 事業化支援センター

産学連携センター
4号館



大学発ベンチャー等の研究開発や事業化を支援する施設

一般事務系オフィスのほか、機械系と化学系の研究室や、小規模ブース単位で使用できる共同研究室を提供している。



- 貸研究室(33室)
- 共同研究室(10ブース)

E 技術開発交流センター

産学連携センター
5号館



カーエレクトロニクス、ロボット分野等での新たな技術開発を支援する施設

北九州学術研究都市でのこれまでの成果を活用し、カーエレクトロニクス、ロボット分野等での技術開発を支援する施設。また、学術研究等を目的に学術研究都市を訪れる方のための宿泊室も備えている。



- 貸研究室(38室) 大型研究室、化学系研究室、IT系研究室
- 宿泊室(9室) シングル8室、ツイン1室 ●交流室(2室)

F 学術情報センター

図書室
情報処理施設



情報を集積・発信するマルチメディアステーション

学術情報の収集提供(図書室)の機能、情報処理教育施設の機能を持つほか、キャンパス内に整備された大容量ネットワークを利用したさまざまな情報通信サービスを提供している。

貸研究室賃料

◎2,000円/㎡・月(共益費別 500円/㎡・月)
(例:研究室50㎡の場合およそ150万円/年 光熱水費等別)

財団法人北九州産業学術推進機構

フェイス
FAIS

Kitakyushu Foundation
for the Advancement of Industry,
Science and Technology

- 理事長／國武 豊喜
- 基本財産／8億円(全額北九州市出捐)
- 役員構成／[学界] 学研都市参画大学長 市内理工系大学長
[産業界] 商工会議所等経済団体
[行政] 北九州市、福岡県
- 職員数／88名(H23.5.1現在)、市派遣：24名、県派遣：1名、
民間出身：36名(うち出向14名)、事務嘱託等：27名
- 平成22年度事業費(決算額)／26.9億円(うち、国等の受託研究等約2.4億円※)
※国等の資産となる機械設備等を含む場合約5.6億円

北九州学術研究都市
のプロモート、
キャンパスの一体的運営

- 施設の管理・運営
- アジアの学術研究拠点の形成
海外大学等との共同研究支援
海外との交流協定
留学生支援
- 地域交流・広報活動



キャンパス運営センター



北九州学術研究都市内にある
共同利用施設の管理・運営を行
うとともに、進出大学間の連携・
交流を促進し、学研都市の一体
的な運営を行っている。

研究成果の
特許化、
事業化支援
北九州TLO

産学連携推進
新産業の創出

- 情報収集・発信、産学交流の促進
- 研究開発支援
- 低炭素化技術研究拠点化の推進
- 重点分野の推進
半導体技術拠点化
カーエレクトロニクス拠点化
ロボット技術開発拠点化

アジアの中核的な学術研究拠点
新たな産業の創出、技術の高度化
地域の産業・学術の振興

中小企業の
総合的支援、
ベンチャー企業の
創出育成

- 経営相談・専門家派遣・
販路拡大支援
- インキュベーション施設の
管理・運営



産学連携統括センター

先端科学技術分野の研究を行う大学・研究機関の知的基盤を活用した産学共同研究や技術移転のコーディネートを行い、産業技術の高度化や新産業・ベンチャー企業の創出を促進している。



- ◎産学連携のコーディネート、技術等の相談窓口
- ◎北九州学術研究都市の研究シーズの発信
- ◎産学交流の場の提供
- ◎先導的低炭素化技術研究戦略会議の運営
- ◎産学共同研究プロジェクトの企画推進、研究成果の事業化支援
- ◎産学共同研究開発への支援
- ◎北九州TLOによる技術移転支援
- ◎地域イノベーション戦略支援プログラムの推進

カー・エレクトロニクスセンター

次世代自動車の普及によりますます重要性が高まるカーエレクトロニクスの拠点化を進めている。企業技術者と大学研究者のコーディネートによる研究会活動をベースに共同研究開発を促進するとともに、学研都市3大学による「北九州学術研究都市連携大学院カーエレクトロニクスコース」の開講支援など、専門人材の育成に取り組んでいる。



▲カーエレクトロニクス、ロボット事業の拠点となる技術開発交流センター

◎研究開発 ◎人材育成



▲カーエレクトロニクス人材育成講座

ロボット開発支援部

北九州地域のロボット産業振興を目的とし、北九州ロボットフォーラムの運営をしている。ロボット技術の調査、開発から実証までのコーディネートや学研内の大学とロボット関連企業との共同研究開発を通して、ロボット分野にかかる「技術開発」「実用化」の拠点化を進めている。また、ロボット分野における高度人材育成に取り組んでいる。



▲医療用上肢リハビリロボット

- ◎ロボット技術の調査、開発、コーディネート
- ◎実証化・事業化のコーディネート
- ◎人材育成

半導体技術センター

エレクトロニクス産業の中核的技術となる半導体設計・応用技術の拠点化を進めている。エレクトロニクス産業、特に半導体企業の地域クラスター形成のため、ベンチャー企業の育成、人材育成、産学連携の促進などの事業を展開している。また、LEDアプリケーション創出に係わる各研究会の運営の支援や各研究員の情報交換の場を提供することを目的に、平成23年2月に「ひびきのLEDアプリケーション創出協議会」が発足した。北九州発の新LEDアプリケーション産業創出を目指すとともに、北九州エリアのLED使用比率を高めて低炭素化社会に貢献する。

- ◎半導体関連ベンチャー企業の育成
- ◎半導体関連人材育成
- ◎産学連携の促進



中小企業支援センター

戸畑区中原新町2-1(北九州テクノセンター1階)

中小企業の経営革新・創業をワンストップで支援している。創業や経営の改善・革新を目指す個人や中小企業の取り組みを支援するため、相談窓口、専門家派遣等のほか北九州知的所有権センターやインキュベーション施設である北九州テレワークセンター等の運営も行っている。



- ◎地元中小企業への総合支援
 - ※総合相談窓口
 - ※専門家派遣
- ◎北九州知的所有権センターの運営



- ◎北九州テレワークセンターの運営
 - ※ビジネス拠点の提供
 - ※ビジネスサポート
 - ※市民への情報通信環境の提供
- 北九州テレワークセンター/
小倉北区浅野3丁目8-1AIMビル6F

大学紹介



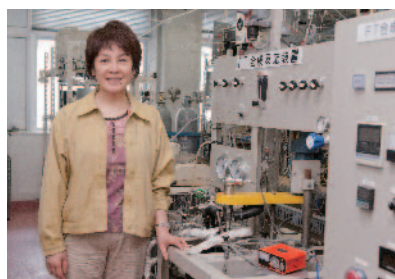
公立大学法人 北九州市立大学
国際環境工学部 大学院国際環境工学研究科
<http://www.kitakyu-u.ac.jp/env/>



国際環境工学部、大学院国際環境工学研究科は、地域社会と産業界の期待に応えるべく、優れた人材の育成と世界水準の技術開発を推進し、地域産業の活性化や市民生活の向上に貢献することを目指している。

国際環境工学部では、これまでの産業技術の蓄積、アジアとの交流の歴史および環境問題への取り組みといたった北九州地域の特性を活かしつつ、多くの優れた研究成果をあげるとともに、環境問題に対する深い認識（環境マインド）と国際的視野を持った人材を育ててきた。今後も、柔軟で積極的な運営に取り組み、環境技術や情報技術の分野で創造力と実践力を育む教育研究を行っていく。

大学院国際環境工学研究科では、国際環境工学部における教育研究を基礎に、環境技術と情報技術を融合した独創的な研究開発・技術開発を行うとともに、高度な専門的能力を有した職業人・研究者の育成を目指す。



interview

北九州市と友好都市の大連市が故郷 石油代替燃料の研究を通して中国との架け橋に

北九州市立大学 国際環境工学部 エネルギー循環化学科
黎 曉紅教授

北九州市立大学が国際環境工学部を開設し、中国からも留学生を積極的に取るということで、日本での留学先だった東京大学の指導教官に紹介されて、平成12年に北九州市へやって来ました。当時はまだ開設前で建物もできておらず、イメージ図(パース)を見せながら留学生の募集を行いました。中国でも環境問題には多くの人が関心を持っています。しかも、私の故郷の大連市と北九州市は友好都市ということもあって、その年は24人の留学生を集めることができました。大連市には日本の企業が4,000社くらい進出しており、日本語ができる優秀な学生は日本のブランド企業にも就職できます。普通はなかなか難しいのですが、留学生にはそのチャンスがあります。これは留学生にとって大きいと思います。

私の専門は触媒化学で、今は主にバイオマス、廃木材、石炭、天然ガスからクリーンで高品位のガソリン、ディーゼル、LPG、メタノールなどを人工で合成する研究を行っています。昨年、地球温暖化対策やエネルギーセキュリティの向上を目的として、国際環境工学部で「バイオマス研究センター」を設立しました。私がセンター長で、国際環境工学部の先生をメインに、北九大の文学部の先生や九工大の先生、北九州高専の先生などもメンバーになっていただき、北九州発で国内外に広がる新産業技術の創成とバイオマス資源を活用する新たな社会づくりの実現を目指しています。

北九州学術研究都市は設備や施設が充実していて、研究するにはとても便利な環境です。留学生の家族が遊びに来ることもあります。北九州市の人は外国人にやさしいという話を留学生からよく聞きます。

将来は、環境問題の認識度なども含めて、大連市全体のレベルを高めていければと思っています。





国立大学法人九州工業大学大学院 生命体工学研究科

<http://www.lsse.kyutech.ac.jp/>



生命体工学研究科は、生命体を持つ機能を統合されたシステムとして理解し、これを工学的に実現する知識と技術を習得させることを目的としている。

生体機能専攻では、主に生命体の構造、物質・エネルギー変換などの生体機能を工学的に特化・整理するための教育研究を行っている。これらを学ぶことにより、生体機能の応用による資源・エネルギーの効率的利用および生物的ゼロエミッションの開発技術、さらに、新規の生体模倣デバイス、システムの開発、医療機関とのタイアップによるメディカルエレクトロニクス、人工臓器、介護福祉機器などの開発技術を習得している。

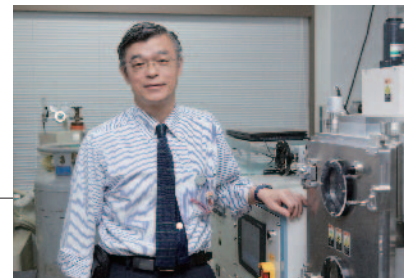
脳情報専攻では、主に、感覚、記憶、学習、運動制御などの脳機能を工学的に応用するための教育研究を行っている。これらを学ぶことにより、脳の情報処理機能の模倣に基づく、人間と親和性の高い機械の設計技術を習得している。

interview

半導体プロセスを使わない低コストで高効率の 光合成型「色素増感太陽電池」を研究

九州工業大学大学院 生命体工学研究科 生体機能専攻

早瀬 修二教授



21世紀の今日、人類にとって大きな問題はエネルギーと環境です。以前、企業に勤めていた時からエネルギー関係に興味を持っていたこともあり、太陽電池を研究テーマに選びました。既に効率の高い太陽電池が市販されていますが、太陽電池で発電した電力のコストは、私たちが普通使っている電力よりも高いのが現状です。半導体プロセスを使わない低コストで高効率の太陽電池をつくることができれば、太陽電池の普及率を格段に上げることができます。そういう壮大な考えのもとで、植物が行っている光合成のメカニズムを使った光合成型の太陽電池である「色素増感太陽電池」の研究を行っています。究極の目標は、ただ塗るだけでいい高効率の太陽電池の開発です。

私は大学院が開設する時に北九州学術研究都市へ来たので、当時は建物もまだできていませんでした。研究を始めるには資金が必要で、資金を得るためにはある程度の組織をつくらなければなりません。その時、FAISさんがコーディネーター役になってくれて、研究グループをつくり、プロジェクト資金を獲得することができました。今は企業や大学と一緒に「北九州薄膜太陽電池研究会」という会をつくっていて、なかなか活発に活動しています。FAISさんも含めて北九州市のサポートは本当に心強いですね。これほどうまくオーガナイズしてくれる地方自治体は他にないと思います。北九州市の底力を感じました。

将来の夢は、学研都市に太陽電池の研究センターをつくることです。半導体プロセスのいらぬ太陽電池なら設備投資が少なく済みますから、中小企業やベンチャー企業でも十分につくることができます。そういう研究や情報の拠点にできればと考えています。



学校法人早稲田大学大学院 情報生産システム研究科

<http://www.waseda.jp/ips/>



21世紀の社会に対応した国際化と高度教育機関へ発展することを旨とし、アジアおよび世界への知の発信拠点となる大学院として設置した。

教育および研究領域を、情報生産システム分野を構成する3つの分野、つまり、情報技術をハードおよびソフト両面から追究する「情報アーキテクチャ」、情報技術を駆使した高品質、高生産性を追究する「生産システム」、将来の各種システムおよび部品の要を支える「システムLSI」に特化し、地域および世界と連携して北九州のみならず日本、アジア、さらには世界の工業の将来に大きく貢献することを目的としている。トータルな視点から、これらの3分野をとらえ、最先端の情報技術とLSI技術を、生産システムとその管理にも活用できる高度な専門知識が学べる。また、各分野の枠を越えた研究領域を、ハード・ソフト両面にわたって広く学ぶことができる。



interview

センシングシステムを研究テーマに 産業の変遷に合わせて求められる技術を開発

早稲田大学大学院 情報生産システム研究科
植田 敏嗣教授

以前勤めていた会社でちょうど55歳の定年を迎える年に、北九州学術研究都市ができました。タイミングがよく、東京の大学で10数年間、非常勤講師として計測の授業をやっていた経験もあったため、早稲田大学大学院が開設するというので応募して採用され、北九州市へ来ました。

私の研究テーマはセンシングシステムです。センシングは、経済、産業、医療、環境のすべての基礎となります。研究室では、広い領域で将来必要になると考えられるセンシング技術の基礎研究を行い、これらのキーとなる技術をデバイス化して、このデバイスを使ったシステムの研究開発を実施しています。石油からスタートして半導体、そして環境、水素、再生可能なエネルギー等へと、日本の産業の移り変わりに合わせて、研究の内容も徐々にシフトしてきました。今は、水素やバイオ分野、がん細胞をにおいて早期発見するセンサなどが全体の3割ほどを占めています。共同研究も多く、地元の企業からの依頼でセンサの開発も行っています。ゼミ生は約30人で、その8割が留学生です。

北九州学術研究都市らしいと感じるのは、キャンパスの中に大学だけでなく、FAISのような組織や、共同研究開発センターなどの施設や設備が整っていて、インフラを共同で使っている点です。例えば、濃硫酸やフッ酸、過酸化水素といった危険な薬品を共同利用施設で管理してもらっていますが、安全面でも経費面でも助かりますね。

今、北九州学術研究都市の昼間の人口は3,000人くらいですが、これが2倍になったら、共同体としてもっといろいろなインフラができるのではないのでしょうか。そこをクリアできるかどうかで、将来も変わってくると思います。





学校法人福岡大学大学院
工学研究科

<http://www.tec.fukuoka-u.ac.jp/eco/2index.html>



多様な分野の知識を総合的に理解し、環境問題の解決と資源循環型社会の創造に貢献する人材の育成を教育理念・目的とする。そのため、実地見学、集中講義を中心とした導入教育により環境を形成する因子群と、それらの相互関係の理解を徹底させることによって、文理融合を基礎とした総合的視野を持つ人材の育成、および海外実習や海外研修、英語コミュニケーション講義および海外機関との共同研究を通して、環境マインドを有し国際化に対応する人材の育成などを教育目標とする。

専攻の内容としては、工学部全学科はもとより、循環型社会を形成するために必要な自然科学、医学、農学、薬学、社会科学等と総合的・有機的な連携を持てるように指導を行い、環境問題の解決と、資源循環型社会の創造に貢献できる、21世紀に世界が求める「高度な実務家(プロフェッショナル)」の育成を目指している。

interview

廃棄物の安全な処理システムや 資源化技術の開発に関する研究を主に実施

福岡大学大学院 工学研究科 資源循環・環境工学専攻

樋口 壯太郎教授



福岡大学は平成9年に当時の文部省の「学術フロンティア推進事業」で、地域の中で特殊な研究をしている私立大学3校の中の1校に選ばれ、北九州エコタウンに学外初の研究所である「資源循環・環境制御システム研究所(以下、資環研)」を設立しました。この研究所があったことで、北九州学術研究都市が開設した時、資源循環・環境工学専攻という環境の大学院をつくり、その大学院の2つの専修を学研都市に置きました。実証は資環研で、その他の解析や産学連携の相談事などをこちらでやっています。

もともと、資環研の設立の目的は産学連携の推進で、エコタウンの実証エリアに進出している企業の方とこれまで20件以上の共同研究を行ってきました。長年、産学連携をやってきたこともあり、こちらの専修には社会人入学してくる方が非常に多いのが特徴です。北九州市はエコタウン事業で全国的に名が知られているため、企業の中でも「環境の分野で勉強するなら学研都市」と言われているそうです。

私の研究室では、廃棄物の安全な処理システムや資源化技術の開発に関する研究を主に行っています。例えば、焼却場や最終処分場から発生する塩を回収して中和剤や滅菌剤として使えば、処分する量も減るし塩害もなくなります。

実は、日本は決して資源のない国ではなくて、世界中から集めた未利用資源が最終処分場にはあります。今の技術を持ってすれば、高度経済成長期に捨てたごみがまた活用できるのです。そうした未利用資源の発掘が、これからの研究テーマです。今後は、古い埋立地を掘り起こして、未利用資源の中でも今まで振り向かれなかったベースメタルなどの資源を回収することも、ぜひやっていきたいですね。

人材育成

北九州学術研究都市連携大学院カーエレクトロニクスコース

平成21年4月より、学研都市3大学院（北九州市立大学・九州工業大学・早稲田大学）にて開発7講座と単位互換制度を活用した「北九州学術研究都市連携大学院カーエレクトロニクスコース」を開設し、実践的な高度人材の育成に取り組んでいる。
※「北九州学術研究都市連携大学院カーエレクトロニクスコース」・・・56ページ参照

北九州学術研究都市高度専門留学生育成プログラムの実施

経済産業省及び文部科学省の「アジア人財資金構想」高度専門留学生育成事業を受託し、北九州学術研究都市内の大学院で学ぶ修士課程の留学生を対象に、「環境」「情報」分野での産学連携専門教育や実践的なビジネス教育を行い、専門知識と語学力を身に付けたグローバル人材、日本とアジアの架け橋となるブリッジ人材の育成を進めた。

2007年度	12名
2008年度	14名
2009年度	17名
2010年度	11名

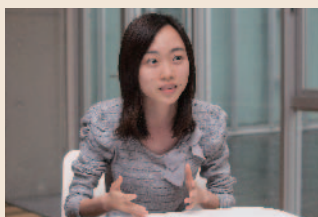
※各年度の入学者数



ひびきの賞(修士論文)

「ひびきの賞」は、北九州学術研究都市で学ぶ修士課程の大学院生を対象に、修士論文の学術的な高さを評価することを目的として、平成18年度に創設された。第1次審査(書類審査)、第2次審査(プレゼンテーションによる論文発表)によって最優秀賞が選ばれる。

▶学研都市卒業生NOW



interview

日本の先端企業との交流のチャンスが

早稲田大学大学院情報生産システム研究科 博士後期課程 システムLSI分野
周 金佳さん
(平成22年度「ひびきの賞(修士論文)」最優秀論文賞受賞)

私は中国の上海出身で、上海交通大学に通っていた時から、早稲田大学大学院情報生産システム研究科の後藤敏先生のごことはよく知っていました。後藤先生は中国でも有名で、私の指導教員は後藤先生の友人です。指導教員は東京大学に留学した経験があり、日本の研究スタイルが非常にいいという話を以前から聞いていました。私自身、外国で勉強してみたいと思っていたので、留学するなら日本にしようと決めました。北九州市を選んだ理由は、まず、後藤先生が北九州学術研究都市にいらっしゃること。そして、北九州市は研究に適した環境だと思ったからです。

実際、こちらへ来るまで不安もありましたが、授業はすべて英語で、日本語ができない私でも大丈夫でした。専攻はシステムLSIで、超高精細アプリケーション向けH.264/AVC統合パラメータデコーダの研究を行い、平成22年度「ひびきの賞(修士論文)」の最優秀論文賞をいただきました。

学研都市に留学して良かったと思うのは、東芝やソニーなど日本の先端企業と交流のチャンスが与えられることです。企業の方がこちらへ来て、一緒に研究することもあります。卒業後は、日本学術振興会(JSPS)の特別研究員として少なくとも3年間、後藤先生の下で研究を続けることができるようになり、とてもうれしいです。将来、チャンスがあれば日本の企業に就職したいですね。

interview

「ひびきのキャンパスで学んだこと、思い出」



日産自動車株式会社 和田 佑二さん

九州工業大学大学院 生命体工学研究科 脳情報専攻
北九州学術研究都市連携大学院カーエレクトロニクスコース修了[平成23年3月卒業]

私は自律型移動ロボットの研究開発を行っていて、人の生活する空間での運用を目指していました。カーエレクトロニクスコースで学ぼうと考えた理由は、クルマの技術はロボットでも用いることができると考え、その技術を学び、ロボットの開発に活かしたいと思ったからです。実際、GPSや回路設計などの講座を始め、クルマに関する知識を広く学ぶことができたことが、現在とても役に立っています。

カーエレクトロニクスコースでは、自動車業界の第一線で働いている方々から学ぶことができ、普通の講義よりも刺激的な内容に触れることができました。また、オフサイトミーティングという企画では、業界の最新トピックに触れることができ、面接の練習にもなったので、とても有意義な企画だったと思います。

私は現在、走行制御開発部という部署に所属しており、ブレーキを扱うグループで業務を行っています。万が一にも作動不能の状態を引き起こしてはならず、少しの不具合も残さないようにシステムを構築しなければなりません。私たち一人ひとりが、お客様の安全を護るんだという気持ちで日々頑張っています。

将来の夢は、交通事故のない社会を実現することです。交通事故で辛い思いをする人を少しでも減らし、最終的にゼロにしていきたいと考えています。



北九州市役所環境局環境政策部環境学習課 加茂 華子さん

北九州市立大学 国際環境工学部 環境化学プロセス工学科(現エネルギー循環化学科)
[平成21年3月卒業]

ひびきのキャンパスで学んだ中で北九州学術研究都市らしく印象深い講義は、1年生必修科目の「環境問題事例研究」です。学科の違う約8人のチームで1年間、一つの研究課題について目的から調査手順に至るまで自分達で考え、調査研究を行います。私のチームは、産業廃棄物である「おから」のリサイクル事業の課題について研究し、そこで、チームでの話し合いを通して複数の意見のまとめ方や留学生の生活マナーや考え方の違い、他チームの発表を通して意見の伝え方を学びました。

卒業研究では、身近な化学物質が生物の体に及ぼす影響やその仕組みを、生物の体の機能などの生化学の観点から考え、生物の健康を脅かす環境問題について研究しました。

北九州市は環境ホルモンについて調査・研究に取り組んでいます。私が研究したエストロゲン様物質も環境ホルモンの一種であるという点で関連があり、このような仕事はもちろんのこと、環境保全活動や環境教育にも活かせる機会があるのではないかと思います。

将来の夢は、人の役に立てる仕事、暮らしを守る仕事をしていくことです。私は化学職なので、化学の知識を活かして、環境保全やごみ処理、水質管理など、人が生活するために必要な仕事がたくさんあります。人々の暮らしを守り支えるプロになりたいと思います。

留学生への宿舎の提供・奨学金の給付

総戸数200戸の留学生宿舎を提供するとともに、北九州学術研究都市の大学院に在籍する留学生を対象に、「北九州学術研究都市奨学金」(1人年間60万円)を給付している。

●平成23年度給付人数枠/30人



留学生宿舎

語学教育センターの運営

留学生や北九州学術研究都市に立地する企業・研究機関の職員を対象に、日本語・英会話・漢字の講座を開講する語学教育センターを運営している。

- 日本語クラス/習得レベルにあわせた初級から中級までの6クラス
- 英会話クラス/初級と中級の2コース
- 漢字クラス/初級と中級の2コース(平成23年度から中級新設)
- 平成22年度受講者/日本語190名、英会話62名、漢字21名、計273名



漢字講座

留学生交流事業への助成

北九州学術研究都市の留学生の生活全般に関する相談業務、留学生が参加する地域との交流事業及び日本文化を習得できる事業等について支援するため、NPO法人『学研都市留学生支援ネットワーク(FORSNET)』が運営する「学研都市留学生交流会」の活動(平成22年度:交流会開催数41回、来訪者数のべ3,605人)に対して助成を行っている。

interview

留学生の皆さんのナビゲーター役に

(左から)
NPO法人学研都市留学生支援ネットワーク (FORSNET) 奥岡 洋子さん(事務局長)
網中 雪さん(事業推進担当)
坂上 茂子さん(広報・企画担当)
平野 庸子さん(HP担当)



FORSNETは、学校と行政ができない隙間のケアを行うということで、平成16年にNPO法人として発足しました。お茶でも飲みながら何かあれば相談してくださいという、アットホームな雰囲気の中でのスタートでした。平成19年に北九州市立大学から留学生会館の一角を貸与していただくことになり、現在の事務所を開設しました。この時、オープン記念として開催した「七夕茶会」の評判が良く、現在の「チーム茶道」につながっています。

FORSNETの事業内容は、留学生の就職や引越しなどに関する生活支援、地域住民との交流支援、日本文化の伝承の3本柱で、特に就職マナー講座は留学生の皆さんに好評です。模擬面接と実践面接も行い、スーツやネクタイの選び方から、入退室のマナー、姿勢、椅子の座り方などをマンツーマンで指導します。日本人には当たり前のことも、留学生にとっては戸惑うことが多いようです。これまで、日本で就職を希望していた留学生は100%合格しました。お互い「第二の家族」のような存在ですから、一人合格するたびに涙です。しかも、卒業して終わりではなく、先輩たちがネットワークを作って後輩の就職活動にアドバイスをくれるなど、強い絆で結ばれています。

今後は活動の幅を広げ、地域の方にもっとたくさん学研都市へ来ていただけるような企画も考えていきたいですね。